

0211_東南アジア世界の発展（1）

【0211_東南アジア世界の発展（1）】つぎのA～Gの文は、[語群]のどの国のことを述べているか、記号で答えよ。また、文中の空欄に適する語句を答えよ。

- A 中部ベトナムの港市国家連合で、中国では(1)とよんだ。中国船の最初の寄港地で、貴重な香木である沈香や象牙などを輸出して栄えた。南下してきたベトナムにおされ、ついには併合されたが、多くの石造建築物を残している。
- B カンボジアや東北タイ平原の農業開拓に成功し、豊かな水田から得た富をもとに海上交易で利益をあげた王国である。この富を背景に、スールヤヴァルマン2世は、有名な(2)寺院を建てた。
- C ベトナム人の政権で、東シナ海交易の航路からははずれたが、(3)デルタを開発して農業生産を高めた。この国は、農業生産を増大させ、元軍の3次にわたる侵入を撃退したのち、良港と物産品を求めて、南部に領域を拡大した。
- D この国は、11世紀に生まれたマラッカ海峡の両側の港市の連合国家で、宋に朝貢して繁栄した。音は似ているが、7世紀の室利仏逝とつながりはなく、14世紀にはジャワ勢力の拡大でおとろえ、いくつかの小地域に分かれた。
- E 11世紀中ごろ、南下したビルマ人がイラワディ川中流域に建てた国で、農業開拓に努めるとともに、雲南とベンガル湾を結ぶ陸上交易で栄えた。この国が元の侵入とタイ系シャン人の南下でおとろえると、南部のモン族が港市国家(4)を建設してベンガル湾交易を担った。
- F 隣接するカンボジアの繁栄に刺激された内陸のタイ人は、13世紀に中部タイで(5)朝を建てたが、14世紀には、チャオプラヤ川中流に新たに王朝を建国した。この王朝は内陸の物産を中国などに輸出して繁栄し、のちには日本人町もつくられた。
- G 香辛料交易の中心地ジャワ島東部では、11世紀にクディリ王国、ついで(6)王国が成立し、スマトラ島東部まで勢力を広げたが、元軍の侵攻を受け、新しい王国に引きつがれた。この国は、14世紀には現インドネシア全域の交易を掌握した。

[語群] ア 三仏齊 イ チャンパー国 ウ クメール王国 エ パガン王国
オ 陳朝大越国 カ 李朝大越国 キ シヤイレンドラ
ク マジャパヒト王国 ケ アユタヤ王国 コ マタラム王国

----- [解答] -----

A－イ　　B－ウ　　C－オ　　D－ア　　E－エ　　F－ケ　　G－ク
1－占城　　2－アンコール=ワット　　3－紅河　　4－ペルー
5－スコータイ　　6－シンガサリ